

令和3年度
養成訓練事業（専門課程・短期研修）
フォローアップ調査報告書
（概要版）

国立保健医療科学院

令和3年度 国立保健医療科学院専門課程・短期研修
フォローアップ調査報告書

1. 本調査の目的

国立保健医療科学院（以下、本院）は、研究課程、専門課程Ⅰ・Ⅲ、短期研修 約40コースの教育研修を実施しており、例年、年間1,800名程度の修了者を出している。継続的に教育研修の質の向上を図ることは、本院における養成訓練事業を発展させる上で極めて重要であると考えられる。今回、研修の有用性の検証と研修に関するニーズ把握を目的として、令和2年度の派遣元及び修了者を対象にフォローアップ調査を実施したので、その結果を報告する。

2. 対象と方法

調査の対象は、令和2年度に本院での研修を修了した者とその派遣元である。長期研修については、専門課程Ⅰと専門課程Ⅲの2分野（保健福祉行政管理分野分割前期、保健医療データ分析専攻科）を対象とした。

短期研修については、令和2年度に実施した研修から、過去の調査対象も踏まえ、各分野小委員会において選定し、短期研修委員会を通じて、教務会議で最終的に7研修を対象とすると決定した。具体的には、難病患者支援従事者研修（保健師等）、難病患者支援従事者研修（難病相談・支援センター職員研修）、介護保険における保険者機能強化支援のための指定都市職員研修、婦人相談所等指導者研修、医療放射線の適正管理に関する研修、環境衛生監視指導研修、地域医療の情報コーディネータ育成研修である。

調査の方法は、自記式質問票を修了者及び派遣元に郵送し、遠隔教育システムに自記式質問票の回答を入力し集計を行った。

質問事項は、「本研修は役に立っているか（修了者・派遣元）」「本研修を他の人に勧めたいか（修了者）、今後も本研修に職員を派遣したいか（派遣元）」「本研修は今後も継続して実施すべきか（修了者）、本研修は今後も実施すべきか（派遣元）」「全ての研修をオンライン形式で開催したが、集合形式の研修よりも参加しやすかったか（修了者）、派遣しやすかったか（派遣元）」「オンライン研修の受講環境を用意する上で、困難であった点（修了者・派遣元）」等である。

3. 調査結果の要約

回収率は、専門課程全体では修了者82%（回収数/送付数=23/28）、派遣元53%（回収数/送付数15/28）、短期研修全体では修了者72%（回収数/送付数=102/142）、派遣元50%（回収数/送付数=62/123）であった。

(1) 専門課程

本研修は「(大変)役に立っている」との回答は修了者 96%、派遣元 93%、本研修を他の人に「(強く)勧めたい」は修了者 91%、今後も本研修に職員を「(是非)派遣したい」は派遣元 87%、本研修は「今後も(是非とも)継続的に実施すべきである」は修了者 100%、派遣元 93%と、全体として、派遣元・修了者ともに肯定的な回答が多数であった。

その他、修了者からは、「知識をつけ、整理する貴重な機会になった」「公衆衛生、行政に関する知識が得られ、同時に専門用語に対する理解も深まったこと、現在の行政の方向性が掴めたことは現場での対応に役立っている」「特に公衆衛生行政、疫学概論の研修内容が業務上役に立っている」「グループディスカッションの経験も保健所業務で役に立っている」「アンケート作成時にどのように質問すると自分の意図を汲み取った調査ができるか実践的に体験できて役に立っている」(専門課程Ⅰ保健福祉行政管理分野(分割前期))、「一部業務に活用出来ている。データ活用の際、考え方の幅が広がった」「研修の中でデータ分析の手法、統計学、疫学などの知識を習得したことにより、業務の幅が広がった」「CSVを加工してリストを作ったり、他のデータと突合したりできるようになった」「データ分析を行う際に今までとは違った切り口でアプローチが行えるようになった」(専門課程Ⅲ保健医療データ分析専攻科)など、研修の有用性に関する意見が寄せられた。

(2) 短期研修

今回調査した短期研修全体として、本研修は「(大変)役に立っている」との回答は修了者 82%、派遣元 98%、本研修を他の人に「(強く)勧めたい」は修了者 93%、今後も本研修に職員を「(是非)派遣したい」は派遣元 98%、本研修は「今後も(是非とも)実施すべきである」は修了者 94%、派遣元 98%と、全体としては、修了者・派遣元ともに肯定的な意見が多数であった。

(3) オンライン形式による参加(派遣)のしやすさ(調査結果から抜粋)

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、全ての研修をオンライン形式で開催したが、例年の集合形式の研修よりも参加(派遣)しやすかったかを尋ねた。

専門課程は、「参加しやすかった」が修了者 26%、「派遣しやすかった」が派遣元 47%、「変わらない」が修了者 13%、派遣元 20%、「参加しにくかった」が修了者 4%、「派遣しにくかった」が派遣元 13%、「どちらともいえない(判断できない)」が修了者 57%、派遣元 20%であった。

また、短期研修では、「参加しやすかった」が修了者 45%、「派遣しやすかった」が派遣元 52%、「変わらない」が修了者 2%、派遣元 19%、「参加しにくかった」が修了者 5%、「派遣しにくかった」が派遣元 4%、「どちらともいえない(判断できない)」が修

了者 47%、派遣元 26%となった。

オンライン形式による研修に参加（派遣）した意見として専門課程からは、参加しやすかったと回答のあった中では家族の事情等によりオンラインで参加できて良かったといった意見が多かった。派遣しやすかったと回答のあった中では「旅費や宿泊費等の支給事務が不要となった」「派遣に要する交通費・宿泊費の面から派遣しやすかった」といった経費の面で派遣しやすかったとの意見が多かった。修了者の半数以上がどちらとも言えない（判断できない）と回答のあった中では「良かった面と悪かった面がある。良かった面は、家族との時間が確保でき、コロナ関連を含む保健所業務を並行してこなせた。悪かった面は、研修にもっと集中して学び、同期との交流を深めなかった。図書館も利用できなかった」といった集合研修、オンライン研修どちらも長所・短所があり一概に判断できないといった意見があった。多くは集合研修を経験していないので判断できないといった意見が多かった。

その他に短期研修からは、「コロナ禍においてはオンラインによる研修が安全で望ましい」「子育て中のため、宿泊を伴う研修であれば参加できなかった」「借りられるパソコンの端末が少なく、研修を受けられる部屋が少ない。Wi-Fi環境が整っていない」などの意見があった。

予算削減や定員削減により研修への派遣・参加が、今後さらに困難な状況となることが想定される中で、オンライン研修の活用により集合研修の期間短縮が望まれる一方、派遣元で研修に専念できる環境等の配慮と、集合研修とオンライン研修の使い分けが課題と思われる。

（４）オンライン形式による研修の受講場所（調査結果から抜粋）

オンライン研修を受講した修了者に、受講した場所を尋ねた。

専門課程は「職場内」が48%、「ご自宅」48%、「その他」4%であった。その他と回答のあった1名については「最初は自宅で行っていたが、途中から職場に出るように言われた」との回答であった。

短期研修は「職場内」が81%、「ご自宅」が18%、「その他」が1%であった。その他と回答のあった1名については「本庁担当課が借り上げた宿泊施設の一室」との回答であった。

（５）派遣対象者の選定に変化があったか（調査結果から抜粋）

派遣元に対して、オンライン形式で開催したことによって派遣対象者の選定に変化があったか尋ねた。

専門課程は「拡大した」が13%、「変わらない」が67%、「どちらとも言えない（判断できない）」が20%であった。

短期研修は「拡大した」が13%、「変わらない」が69%、「縮小した」が6%、「どち

らとも言えない（判断できない）」が13%であった。

拡大したと回答のあった意見では「今後もオンライン形式が継続するのであれば、派遣しやすくなり対象も拡大すると考える」「経費的な制約が小さくなるため」などの意見があった。

（6）受講環境を用意する上で、困難であった点（調査結果から抜粋）

オンライン研修の受講環境を用意する上で、困難であった点を修了者と派遣元に尋ねた。

専門課程は「PC等端末の確保」が修了者26%、派遣元27%、「受講場所の確保」が修了者35%、派遣元53%、「ネットワーク回線の確保」が修了者30%、派遣元13%、「その他」が修了者35%、派遣元33%であった。

短期研修は「PC等端末の確保」が修了者39%、派遣元41%、「受講場所の確保」が修了者49%、派遣元52%、「ネットワーク回線の確保」が修了者30%、派遣元28%、「その他」が修了者29%、派遣元30%であった。（複数回答可）

（7）研修の実施形式（調査結果から抜粋）

今後の研修の実施形式を検討する上で、修了者と派遣元に対しどの形式による実施が望ましいか尋ねた。

専門課程は、「オンライン形式のみ」が修了者9%、派遣元20%、「集合形式のみ」が修了者17%、派遣元13%、「オンライン及び集合の混合型」修了者65%、派遣元13%、「オンライン又は集合の選択形式」修了者26%、派遣元60%、であった。

また、短期研修では、「オンライン形式のみ」が修了者24%、派遣元24%、「集合形式のみ」が修了者8%、派遣元7%、「オンライン及び集合の混合型」修了者39%、派遣元41%、「オンライン又は集合の選択形式」修了者46%、派遣元43%であった。

「オンライン及び集合の混合型」と回答のあった意見では「この研修の成果は知識がもちろんですが、最大の成果は「受講生のネットワークの構築」だと思っています。一週間でもよいので埼玉に集合して「生の顔を見て、生の声を聞きたい」と思いました。」といった研修生同士の繋がりが大切であるという意見が修了者からは多かった。「オンライン又は集合の選択形式」と回答のあった意見では「受講者の居住地や家庭の事情等にあわせて、受講環境が選択できればと思います」といった受講生側に選択肢があれば受講しやすいといった意見もあった。（複数回答可）

（8）講義資料の電子媒体による配布（調査結果から抜粋）

令和2年度は全ての講義資料を電子媒体に変更し、遠隔教育システム上にて配布した。派遣元及び修了者に対し、講義資料を紙媒体から電子媒体に変更したことによる利用に際しての支障の有無について尋ねた。その結果、特に支障がなかったとの意見があ

る一方で、配布の時期が講義の直前だったため、自宅から受講していた受講生は印刷するのに大変であったとの意見があった。

令和2年度の研修ではコロナウイルス感染症の影響により、研修の実施はオンラインのみで行った。派遣元自治体にも環境の変化に柔軟に対応をしていただいております、電子ファイルで資料を配布しても大きな問題はない状況である。ただし受講生がすべての資料をプリントアウトする場合もあるため、その負担を感じている受講生もいるようである。